九州ルーテル学院大学副専攻規程

（趣旨）

第１条　副専攻とは、属する学科・専攻で卒業をめざす主専攻に加え、学科・専攻を越えて、一人ひとりが主体的に興味関心のある分野を学修する制度のことをいう。

２　この規程は、履修規程（第6条及び第６条の２）の規定に基づき、副専攻に関し必要な事項を定めるものとする。

（副専攻の分野及び履修方法）

第２条　副専攻は、以下に掲げる７分野とし、その単位数及び配当年次は、別表１から別表７のとおりとする。

（１）英語コミュニケーション副専攻

（２）保育・幼児教育副専攻

（３）小学校教育副専攻

（４）発達障害支援副専攻

（５）学校ソーシャルワーク副専攻

（６）カウンセリング副専攻

（７）心理社会調査副専攻

２　副専攻の授業科目の履修方法等については、別表１から別表７のとおりとする。

（副専攻の開始時期）

第３条　副専攻の開始時期は２年次とする。

（副専攻の履修登録）

第４条　副専攻の履修登録を希望する学生は、２年次前期以降の履修登録期間に、副専攻履修届（様式第１号）により副専攻の履修登録申請をしなければならない。履修登録期間に届け出がなかった者には、副専攻の履修登録は認めない。

２　副専攻の履修要件及び受入上限数については、別表１から別表７のとおりとする。

３　希望者が多い場合又は、その他各科目において定められた履修条件により、副専攻の履修登録を認めないことがある。

（副専攻の履修登録の解除）

第５条　学生は、履修登録期間内に副専攻履修辞退届（様式第２号）を提出することにより、副専攻の履修登録を解除することができる。

２　履修条件を満たさなくなった学生の副専攻の履修登録を解除する。

（副専攻の修了）

第６条　副専攻の修了は、別表１から別表７に定める修了要件を満たした学生とする。

（副専攻修了の認定）

第７条　副専攻修了の認定は、教務委員会及び教授会の議を経て、学長が認定する。

（副専攻修了証明書）

第８条　当該学生が以下の各号に定める修了証明書発行要件を全て満たしている場合は、修了証明書（様式第３号）を交付する。

（１）３年次以上であること。（見込み）

（２）別表１から別表７に定める副専攻修了要件に対して、単位を修得している又は履修中であること。

（雑則）

第９条　この規程に定めるもののほか、この規程の施行に関し必要な事項は、別に定める。

（改廃）

第１０条　この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が行う。

附　則

この規程は、２０２３（令和５）年４月１日から施行する。また、この規定は、２０２３（令和５）年度以降に入学した者について適用する。

附　則

この規程は、２０２４（令和６）年４月１日から施行する。また、この規定は、２０２４（令和６）年度以降に入学した者について適用する。

※本学で開設する副専攻

副専攻名称	必　要 単位数	対象	受入人数 （各学年）	詳細
英語コミュニケーション副専攻	１０	・人文学科 （ｷｬﾘｱ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ専攻除く） ・心理臨床学科	１５	別表１
保育・幼児教育副専攻	１０	・人文学科 （保育・幼児教育専攻除く） ・心理臨床学科	１５	別表２
小学校教育副専攻	１０	・人文学科 （児童教育専攻除く） ・心理臨床学科	１０	別表３
発達障害支援副専攻	１０	・人文学科 （児童教育専攻除く） ・心理臨床学科	１０	別表４
学校ソーシャルワーク副専攻	１２	・人文学科	１０	別表５
カウンセリング副専攻	１２	・人文学科	１５	別表６
心理社会調査副専攻	１６	・人文学科	１０	別表７

別表１

副専攻の名称	英語コミュニケーション副専攻 English Communication Minor Program

１．概要

日本の急速なグローバル化に伴い、日本人にとって自分らしい English を駆使し英語でコミュニケーションをとる機会が増えている。英語コミュニケーション能力に育成には単に語学力だけではなく、情報収集力を高め、資料の分析ができる能力の向上も不可欠である。本副専攻では英語のコミュニケーション能力の向上を目指すと共に、英語での様々な情報収集の方法についても学ぶ。

小中高でも取り組まれる SDG（SDGs：Sustainable Development Goals）をさらに発展的に学ぶために、情報収集力を高め、資料の分析ができる能力の向上を支援する。

２．到達目標

‣英語で基本的なコミュニケーションができるようになる。
‣グローバル時代における社会の変化を理解できるようになる。
‣世界で起こっていることへの知識を理解できるようになる。
‣語学力を向上し、情報収集ができるようになる。
‣学んだ情報をもとに、英語でプレゼンテーションができるようになる。

３．登録要件

‣プログラム選択のための既修得要件(履修科目名及び単位数等)は特に定めない。
‣履修上の注意点：一定の語学レベル（英検２級又は TOEIC 550 点以上）に到達している人が優先的に学ぶことができる。

４．受入上限数

‣各学年１５名（人文学科 キャリア・イングリッシュ専攻を除く）
‣定員を超える場合は英語での面接を行い、語学レベルと合わせて上位者から選抜する。
※［Introducing Japan in English］については，CE 専攻履修者を優先とし，全履修者数が２３名を超えない人数で受け入れる。超過する場合は，一定の語学レベル（英検２級又は TOEIC５５０点以上）に到達している者を優先するものとする。

５．授業科目

‣授業科目は以下の授業科目一覧を参照すること。
‣授業内容は各年度に公開される該当シラバスを参照すること。

６．修了要件　科目履修表に示す授業科目の中から１０単位以上を修得すること。

７．注意事項

‣主専攻の時間割や履修者数により、副専攻の科目履修が制限されることがある。
‣主専攻の時間割により配当年次に履修できないことがある。
‣副専攻で開設されている授業科目も、本学の CAP 制度の対象科目となる。
‣副専攻で開設されている授業科目も、平均評価点(GPA)の計算対象に含まれる。

８．担当　キャリア・イングリッシュ専攻

授業科目の概要	副専攻科目						
	授業科目		授業の形態	配当年次	単位数(時間数)		成績評価の方法
					必修	選択	
	CE専攻：専門教育科目	スピーチ＆ディベートⅠ	演習	3		2	GP
		スピーチ＆ディベートⅡ	演習	3		2	GP
		こどもと英語	演習	3		2	GP
		Introducing Japan in English	演習	3		2	GP
	共通教育	映画英語	演習	2		2	GP
		英語コミュニケーションⅠ	演習	2		2	GP
		英語コミュニケーションⅡ	演習	2		2	GP
合計(修了必要単位数)					１０単位以上		

別表２

副専攻の名称	保育・幼児教育副専攻 Nursery Teacher Examination Minor Program

１．概要

保育・幼児教育副専攻は、子ども理解の基礎となる授業科目によって構成されている。子どもを取り巻く社会環境や福祉制度について学び、また発達心理学的視点、社会学的視点等から子どもについて理解する。そして、保育・幼児教育の基本的な知識・理解とともに、保育現場で求められる基本的技能や態度を修得することを目的にしている。

遊びを中心とした幼児期の教育と教科等の学習を中心とした小学校教育では、教育内容や指導方法が異なっているものの、保育・幼児教育段階から義務教育段階へと子どもの発達や学びは連続している。そのことから小中学校教員を目指す学生にとって、保育・幼児教育段階の子どもを理解しておくことは、義務教育段階における子どもの育ちを理解する上でも押さえておく必要がある。さらに、学校ソーシャルワーク、カウンセリング等を学ぶ学生にとっても、保育・幼児教育段階の子どもを対象とする場合もあることから、子どもを取り巻く社会環境や福祉制度、子どもに対応する際の基本的態度等について、幅広い視野で学ぶことは重要である。

２．到達目標

本副専攻では、保育・幼児教育の基本的な知識・技能・態度を修得した人材を養成する。そのため本副専攻では、以下の知識・理解・能力を身につけることを目指す。

‣保育・幼児教育に関連する基本的認識枠組みを修得する。
‣子どもを取り巻く社会環境、社会福祉制度の関する知識を理解する。
‣子どもの発達段階について理解し、子どもと適切に関わる基本的態度を学ぶ。

３．登録要件

副専攻選択のための既修得要件(履修科目名及び単位数等)は，特に定めない。

４．受入上限数

‣各学年１５名以下（人文学科 保育・幼児教育専攻を除く）
‣応募人数が上限を超えた場合は、GPA 及び面接により総合的に選抜する。

５．授業科目

‣授業科目は以下の授業科目一覧を参照すること。
‣授業内容は各年度に公開される該当シラバスを参照すること。

６．修了要件

科目履修表に示す授業科目の中から１０単位以上を修得すること。

７．注意事項

‣主専攻の時間割や履修者数により、副専攻の科目履修が制限されることがある。
‣主専攻の時間割により配当年次に履修できないことがある。
‣副専攻で開設されている授業科目も、本学の CAP 制度の対象科目となる。
‣副専攻で開設されている授業科目も、平均評価点(GPA)の計算対象に含まれる。

８．担当　保育・幼児教育専攻

授業科目の概要	副専攻科目						
	授業科目		授業の形態	配当年次	単位数(時間数)		成績評価の方法
					必修	選択	
	保育・幼児教育専攻：専門教育科目	こども家庭福祉	講義	1		2	GP
		社会福祉	講義	1		2	GP
		こども家庭支援論	講義	3		2	GP
		こども家庭支援の心理学	講義	3		2	GP
		保育原理	講義	2		2	GP
		幼児理解	講義	3		2	GP
		こどもの理解と援助	演習	3		1	GP
		こどもと言葉	演習	1		1	GP
		こどもと表現Ⅰ	演習	1		1	GP
		こどもと表現Ⅱ	演習	1		1	GP
		こどもと健康	演習	2		1	GP
		こどもと人間関係	演習	1		1	GP
		こどもと環境	演習	1		1	GP
合計(修了必要単位数)					１０単位以上		

別表３

副専攻の名称	小学校教育副専攻 Elementary School Minor Program

１．概要

「小学校教育副専攻」は、保育士・幼稚園教諭・中学校教諭等を目指す学生を主な対象とし、本副専攻を履修する学生が小学校における教科内容を、その実践的技能等も含め、理解し獲得することを目的とする。

保育所・幼稚園・認定こども園等を経た後、児童は小学校でどの様な内容の学習に取り組んでいくのか、また、小学校でのどの様な学びを経て、生徒は中学校の学びに取り組んでいくのか、それらのいずれにおいても、学生自身が専門的な知識を広げておくことは、自身の主たる教員免許状の取得における質的な深まりに対し、効果的な役割を果たすこととして期待される。そして、教員免許状を取得予定ではない学生にとっても、我が国の義務教育として多くの学生が経験している小学校教育の現在の教科内容について学び直すことで、教科に関する知識や内容の変遷の社会背景を理解する等、一般教養の深化としての効果も期待できる。

２．到達目標

‣教科に関する専門的事項を理解し、児童に対する適切な指導・支援のあり方を身につけることができる。

‣各教科の指導法を修得し、児童に対する適切な指導・支援のあり方を身につけることができる。

３．登録要件

副専攻選択のための既修得要件(履修科目名及び単位数等)は，特に定めない。

４．受入上限数

‣各学年１０名程度（人文学科 児童教育専攻を除く）

‣登録希望者が１０名程度を超える場合は、GPA の上位者から選抜する。

５．授業科目

‣授業科目は以下の授業科目一覧を参照すること。

‣授業内容は各年度に公開される該当シラバスを参照すること。

６．修了要件

別紙の履修表に示す授業科目の「小・教科に関する科目」及び「小・教科の指導法に関する科目」から合計１０単位以上を修得すること。 ただし授業の履修に関して、「教科の指導法に関する科目」を履修する際、その教科に対応する「教科に関する科目」の単位を取得済であることを条件とする。

・科目の選択例

［小・教科に関する科目］・国語　・算数　・理科

［小・教科の指導法に関する科目］・算数教育法　・理科教育法　　計１０単位

７．注意事項

‣主専攻の時間割や履修者数により、副専攻の科目履修が制限されることがある。

‣授業の特性によって、履修上限人数を設定することがある。

‣主専攻の時間割により配当年次に履修できないことがある。

‣副専攻で開設されている授業科目も、本学の CAP 制度の対象科目となる。

・副専攻で開設されている授業科目も、平均評価点(GPA)の計算対象に含まれる。
８．担当　児童教育専攻

	副専攻科目							
	授業科目			授業の形態	配当年次	単位数(時間数)		成績評価の方法
						必修	選択	
授業科目の概要	児童教育専攻：専門教育科目	教科に関する科目	国語	講義	1		2	GP
			社会	講義	2		2	GP
			算数	講義	1		2	GP
			理科	講義	2		2	GP
			生活	講義	1		2	GP
			音楽	演習	1		2	GP
			図画工作	講義	1		2	GP
			家庭	講義	1		2	GP
			体育	演習	1		2	GP
			小学校英語	講義	2		2	GP
		教科の	国語科教育法	講義	2		2	GP
			社会科教育法	講義	2		2	GP
		指導法に関する科目	算数科教育法	講義	2		2	GP
			理科教育法	講義	2		2	GP
			生活科教育法	講義	2		2	GP
			音楽科教育法	講義	2		2	GP
			図画工作科教育法	講義	2		2	GP
			家庭科教育法	講義	2		2	GP
			体育科教育法	講義	3		2	GP
			小学校英語教育法	講義	2		2	GP
合計(修了必要単位数)						１０単位以上		

※　授業の履修に関して、「教科の指導法に関する科目」を履修する際は、その教科に対応する「教科に関する科目」の単位を取得済であることを条件とする。

別表４

副専攻の名称	発達障害支援副専攻 Special Needs Education Minor Program

１．概要

「発達障害支援副専攻」では、障害のある幼児児童生徒の特徴を理解し適切な支援のあり方を学ぶことを目的とする。

小中学校における不登校児童生徒は１００人あたり１人から２人とされ（文部科学省,２０１９)、その数は顕著に増加傾向にある。また、不登校を主訴に受診をした児童のうち、５７％が自閉スペクトラム症や注意欠如多動症、知的障害等の発達障害を有しながら、その８７％は未診断であったという報告もある（鈴木他,２０１７)。通常の学級における効果的な支援を構築するにあたり、これらの発達障害に関する正確な知識と、効果のある具体的な支援法を理解することは、不登校減少と学力向上の観点から有用であることは間違いない。

「発達障害支援副専攻」では、「知的障害」、「限局性学習症」、「注意欠如多動症」、「自閉スペクトラム症」の理解や支援のあり方を理解することを通して、児童生徒の困難さの理由や、適切な関わり方を具体的に理解することができる。

加えて、これらの発達障害を有し、通常学級に在籍することもある「病弱者」の理解や支援についても学修を深めることを目的としている。

２．到達目標

‣知的障害の特徴と支援のあり方を理解することができる。
‣発達障害の特徴と支援のあり方を理解することができる。
‣病弱者の特徴と支援のあり方を理解することができる。

３．登録要件

プログラム選択のための既修得要件(履修科目名及び単位数等)プログラム選択のための既修得要件は，特に定めない。

４．受入上限数

‣各学年１０名程度（人文学科 児童教育専攻を除く）
‣想定を超えた履修希望者がいる場合は、平素の支援活動への参加状況及びGPAの上位者を指標として、担当教員で検討し選抜する。

５．授業科目

‣授業科目は以下の授業科目一覧を参照すること。
‣授業内容は各年度に公開される該当シラバスを参照すること。

６．修了要件　別紙の履修表に示す授業科目より１０単位以上を修得すること。

７．注意事項

‣主専攻の時間割や履修者数により、副専攻の科目履修が制限されることがある。
‣主専攻の時間割により配当年次に履修できないことがある。
‣副専攻で開設されている授業科目も、本学のCAP制度の対象科目となる。
‣副専攻で開設されている授業科目も、平均評価点(GPA)の計算対象に含まれる。

８．担当　児童教育専攻

授業科目の概要	副専攻科目						
	授業科目		授業の形態	配当年次	単位数(時間数)		成績評価の方法
					必修	選択	
	児童教育専攻：専門教育科目	知的障害者の心理・生理・病理Ⅰ	講義	2	2		GP
		知的障害教育総論Ⅰ	講義	3		2	GP
		知的障害教育総論Ⅱ	講義	3		2	GP
		発達障害教育総論（心理等）	講義	2	1		GP
		発達障害教育総論（教育課程等）	講義	2	1		GP
		病弱者の心理・生理・病理	講義	2	2		GP
		病弱教育総論	講義	3	2		GP
合計(修了必要単位数)					１０単位以上		

別表５

副専攻の名称	学校ソーシャルワーク副専攻 School Social Work Minor Program

１．概要

学校ソーシャルワーク副専攻はでは、教員・カウンセラー・ソーシャルワーカーが協働して児童生徒を支える「チーム学校」を目標に、学校現場でソーシャルワークが果たす役割と機能を学び、協働できる力を培っていく。ソーシャルワークの価値に基づいて、ソーシャルワークの理論と方法を学ぶとともに、価値を具現化するためのスキルやアプローチについても具体的な事例や演習から実践的な学びを提供する。児童生徒一人ひとりが尊厳をもつかけがえのない存在として、人と問題を切り離し、問題ではなく可能性をみる姿勢を培うことで、児童生徒の中にある可能性を地域社会の中で開いていくエンパワメントの視点は、本学の各専攻に共通して求められるものである。

教育・心理・ソーシャルワークの専門職が児童生徒のウェルビーイングのために、それぞれの専門性を最大限に活かせるようになることを目指している。

２．到達目標

‣ソーシャルワークに関する基本的な知識を理解し説明ができる。
‣今日の児童生徒を取り巻く現状と課題をソーシャルワークの視点で理解できる。
‣児童生徒が抱える生きづらさや課題を人と環境との交互作用からアセスメントできる。
‣支援に関わる制度や関係機関と多職種協働・連携について理解し説明ができる。
‣対人援助専門職の価値に基づいて支援を考えることができるようになる。

３．登録要件

‣副専攻選択のための既修得要件(履修科目名及び単位数等)は，特に定めない。
‣履修上の注意点：演習科目では、積極的に参加する態度が望まれる。

４．受入上限数：

‣各学年１０名程度（心理臨床学科を除く）
‣登録希望者が上限を超える場合は、GPA および面接によって選抜する

５．授業科目

‣授業科目は以下の授業科目一覧を参照すること。
‣授業内容は各年度に公開される該当シラバスを参照すること。

６．修了要件　別紙の履修表に示す授業科目の１２単位以上を修得すること。

７．注意事項

‣主専攻の時間割や履修者数により、副専攻の科目履修が制限されることがある。
‣主専攻の時間割により配当年次に履修できないことがある。
‣副専攻で開設されている授業科目も、本学の CAP 制度の対象科目となる。
‣副専攻で開設されている授業科目も、平均評価点(GPA)の計算対象に含まれる。

８．担当　心理臨床学科（精神保健福祉コース）

授業科目の概要	副専攻科目						
	授業科目		授業の形態	配当年次	単位数(時間数)		成績評価の方法
					必修	選択	
	心理臨床学科：専門教育科目	ソーシャルワークの基盤と専門職	講義	1	2＊		GP
		障害者福祉	講義	1		2	GP
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	講義	2		2	GP
		学校ソーシャルワーク論	講義	3	2		GP
		ソーシャルワーク演習	演習	3	2		PN
		チーム学校協働演習	演習	3	2		PN
	保育専攻：専門教育科目	こども家庭福祉	講義	1	2		GP
合計(修了必要単位数)					１２単位以上 (必修１０単位含む)		

＊２年次登録前（１年次）までに履修して単位取得しておくことが望ましい科目

別表６

副専攻の名称	カウンセリング副専攻 Counseling Minor Program

１．概要

カウンセリング副専攻では、コミュニケーションスキルに関する基本的な理論と技術を学ぶとともに、心理学の立場から、社会を捉え理解する姿勢を培っていく。カウンセリングに関連し、心理療法における各種の専門的アプローチ法について説明を行う。多角的な視点で人に関わることを学び、対人関係をとる上で、すぐに役立つものとして演習を通し、実践的な学びを提供する。人の話を聞き、話す技術は、本学の各専攻に共通して求められるものであり、日常生活においてもこれらの技術によって、対人関係における困難を乗り切るヒントを得ることができ、自分自身のレジリエンスを向上させることができるようになることを目指している。

２．到達目標

‣カウンセリングに関する基本的な知識を理解し説明ができる。
‣カウンセリングの技術を習得し活用できる。
‣対人関係並びに集団における人の意識・行動について心の過程を理解し、社会や文化が個人に及ぼす影響について説明ができる。
‣支援に関わる制度や関係機関と多職種協働・連携について理解し説明ができる。
‣自己理解を深め、自分自身の課題や回復力に気付くことができるようになる。

３．登録要件

副専攻選択のための既修得要件(履修科目名及び単位数等)は、特に定めない。

４．受入上限数：

‣各学年１５名程度（心理臨床学科を除く）
‣登録希望者が上限を超える場合は、GPA および面接によって選抜する。

５．授業科目

‣授業科目は以下の授業科目一覧を参照すること。
‣授業内容は各年度に公開される該当シラバスを参照すること。

６．修了要件　別紙の履修表に示す授業科目の１２単位以上を修得すること。

７．注意事項

‣主専攻の時間割や履修者数により、副専攻の科目履修が制限されることがある。
‣主専攻の時間割により配当年次に履修できないことがある。
‣副専攻で開設されている授業科目も、本学の CAP 制度の対象科目となる。
‣副専攻で開設されている授業科目も、平均評価点(GPA)の計算対象に含まれる。

８．担当　心理臨床学科（心理学コース）

授業科目の概要	副専攻科目						
	授業科目		授業の形態	配当年次	単位数（時間数）		成績評価の方法
					必修	選択	
	共通教育科目	心理学	講義	1	2＊		GP
		カウンセリング	演習	2	2		GP
	心理臨床学科：専門教育科目	社会・集団・家族心理学	講義	2		2	GP
		認知行動療法	演習	2		2	GP
		精神疾患とその治療Ⅰ	講義	3	2		GP
		精神分析学	講義	3		2	GP
		教育・学校心理学(教育相談)	講義	3		2	GP
合計(修了必要単位数)					１２単位以上（必修６単位含む）		

＊２年次登録前（１年次）までに履修して単位修得していることが望ましい科目

別表７

副専攻の名称	心理社会調査副専攻 Psycho-Social Research Minor Program

１．概要

本学の教育課程全体において心理社会調査に関する基本的知識を学修する。また、調査計画、心理社会的データの収集や分析に関する基礎的知識、統計的リテラシー、調査結果の可視化の実践的技能を身につける。そして、本副専攻の履修によって社会調査士の資格を取得することができる。

２．到達目標

‣人と社会にかかわるデータの取扱いや倫理について修得できる。

‣量的データと質的データを多様な方法で適切に取扱って集計・分析することができる。

‣データを分析するために柔軟に統計ソフトウェアやAIを活用することができる。

‣心理・福祉学や社会動向の視点から調査・研究を設計して、人権・研究倫理に基づいて遂行し、結果を適切に可視化・デザインして報告することができる

３．登録要件

情報活用基礎、心理学、データサイエンス基礎Ⅱは履修登録前に修得済みであること

４．受入上限数

‣各学年１０名まで（心理臨床学科を除く）

‣１０名を超える場合は情報活用基礎、心理学、データサイエンス基礎ⅡのGPAで決定する。

‣３年生（前期開講前）での副専攻登録は、受入れ上限の範囲で認めるが、科目履修の系統性の観点から４年生（前期開講前）での登録は受入れ上限を満たさない状況でも認めない。

５．授業科目

‣授業科目は以下の授業科目一覧を参照すること。

‣授業内容は各年度に公開される該当シラバスを参照すること。

６．修了要件

以下の心理臨床学科専門科目にある科目１６単位以上を修得すること。

※社会調査士取得は本専攻の修了条件とは別に、卒業までに心理臨床学科専門科目に示されているA～Gの科目（EとFは選択必修）の単位を修得しておく必要がある。

７．注意事項

‣主専攻の時間割や履修者数により、副専攻の科目履修が制限されることがある。

‣主専攻の時間割により配当年次に履修できないことがある。

‣副専攻で開設されている授業科目も、本学のCAP制度の対象科目となる。

‣副専攻で開設されている授業科目も、平均評価点(GPA)の計算対象に含まれる。

８．担当　心理臨床学科（人間科学コース）

授業科目の概要	副専攻科目						
	授業科目		授業の形態	配当年次	単位数(時間数) 必修	単位数(時間数) 選択	成績評価の方法
	共通教育科目	心理学	講義	1	2＊		GP
		情報活用基礎	演習	1	2＊		GP
		データサイエンス基礎Ⅰ ※C	講義	1	2＊		GP
	心理臨床学科：専門教育科目	心理学統計法 ※D	講義	2	2		GP
		心理学研究法	講義	2		2 **	GP
		心理学実験	実習	2	2		GP
		データ解析演習 ※E（CE 科目でもある）	演習	3		2 **	GP
		社会福祉調査の基礎 ※A	講義	3	2		GP
		心理測定法 ※B	演習	3	2		GP
		質的研究の技法 ※F	演習	3		2 **	GP
		人間科学研究実習*** ※G	実習	3		2 **	PN
合計(修了必要単位数)					１６単位以上（必修１４単位含む）		

※社会調査士の資格を取得するために単位修得する必要のある科目（A～G は科目領域）
＊２年次登録前（１年次）までに履修して単位修得していること
**いずれか１科目を必ず選択して単位修得すること（選択必修）
***「人間科学研究実習」は、履修者数が多い場合に履修者を選抜することがある

様式第１号（第４条関係）

副　専　攻　履　修　届

年　　月　　日

九州ルーテル学院大学長 殿

所属学科･専攻：

学籍番号：

氏　　名：

副専攻を履修したいので、下記のとおり申請いたします。

記

〇履修を希望する副専攻　　（希望する副専攻の登録希望欄に〇をする）

副専攻の種類	受入定員数	登録希望
英語コミュニケーション副専攻	１５名	
保育・幼児教育副専攻	１５名	
小学校教育副専攻	１０名	
発達障害支援副専攻	１０名	
学校ソーシャルワーク副専攻	１０名	
カウンセリング副専攻	１５名	
心理社会調査副専攻	１０名	

〇申請時点の累計ＧＰＡ（　　）ポイント

様式第２号（第５条関係）

副　専　攻　履　修　辞　退　届

年　　月　　日

九州ルーテル学院大学長 殿

所属学科･専攻：

学籍番号：

氏　　名：

副専攻の履修を辞退したいので、下記のとおり申請いたします。

記

〇辞退する副専攻（辞退する副専攻の辞退希望欄に〇をする）

副専攻の種類	受入定員数	辞退希望
英語コミュニケーション副専攻	１５名	
保育・幼児教育副専攻	１５名	
小学校教育副専攻	１０名	
発達障害支援副専攻	１０名	
学校ソーシャルワーク副専攻	１０名	
カウンセリング副専攻	１５名	
心理社会調査副専攻	１０名	

〇辞退する理由

様式第３号（第８条関係）

副　専　攻　修　了　証　明　書

所属学科･専攻：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学籍番号：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　　名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

上記の者は「〇〇〇〇〇副専攻」における指定科目を履修し、必要単位を取得し修了したことを証明する。

年　　月　　日

九州ルーテル学院大学　学長